

まめぞう博士の

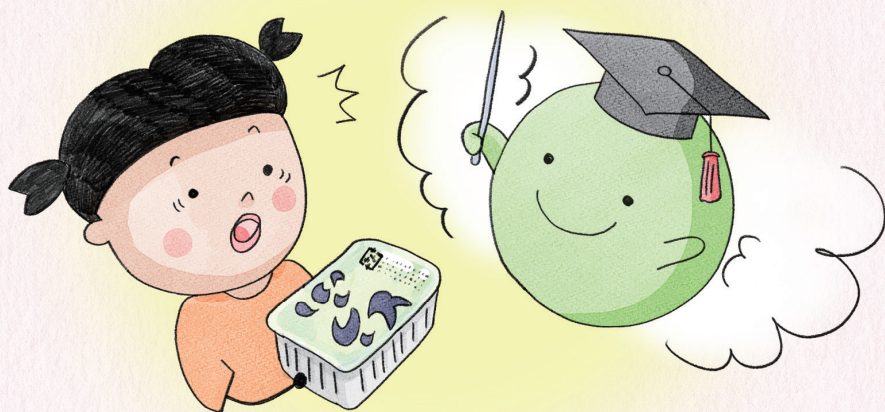
ECO授業



「くるりん」パック

おとうふの入れ物編

OTOUFU FACTORY ISHIKAWA



「昔、おじいちゃんやおばあちゃんが子供のころ、お豆腐屋さんは、家の近所にお店があるか、ラッパを吹いて売りに来たんだよ。お鍋やボールを持って買いに行ってその中に豆腐を入れてもらったんだ。」
「へえー知らなかった。お鍋を持っていくなんて不便だね。」

「今の時代だったら、ゴミを出さないエコの最先端！
だけど、スーパーマーケットが出来て、欲しいものを手軽に買えるようになってお豆腐を入れるプラスチックの容器ができたんだよ。
このマークは入れ物がプラスチックであるしるしなんだ。」

パ〜プ〜
マメ子さんの家の近くにおとうふ屋さんの車がやって来ると、「マメ子、おとうふ1丁と油揚げを買ってきて」と、お母さんに頼まれました。

買ったばかりのお豆腐を見るとなんだか気になるマークがあります。

これ学校で習った気がするけど何だったかな？と首をかしげていると、

「僕はまめぞうくん。大豆の妖精だよ。どうしたの？」

「この豆腐のパックに書いてあるマークがわからないの……。」

「じゃあ、まず豆腐のパックの歴史を教えてあげるよ。」



マメ子さんは、おとうふが大好きです。
冷やっこ、麻婆豆腐、揚げ出しとうふ、
お鍋のお豆腐も、お味噌汁のお豆腐も大好きです。
いろいろなお豆腐を食べるけど、
お豆腐がパックに入っているのはあたり前でした。

「毎日お豆腐はたくさん作られているのに、
パックはどうなっているのかしら。」
「豆腐は一年間で日本だけでも50億丁もつくられているからね。
パックだけでも5万トン以上も使うんだよ。
パックはプラスチックごみで出してるよね」



「集められたプラスチックゴミはどこへ行くのかな？」
「リサイクルにはいろいろな方法があるようだ。」

サーマルリサイクル

ごみを燃やして、熱や電気を発生させる方法。
ごみ処理の熱エネルギーを利用して発電したり、
温水プールの温水を作ったりしているよ。



マテリアルリサイクル

ごみを洗ったり砕いたりして、再利用。
ペットボトルからもう一度ペットボトルを作ったり
繊維に加工して洋服を作ったりしているよ。



ケミカルリサイクル

ごみを化学反応させて、原料に戻したり新しい
物質に変えたりする方法。
プラスチックを石油やガスに戻したりできるんだ。



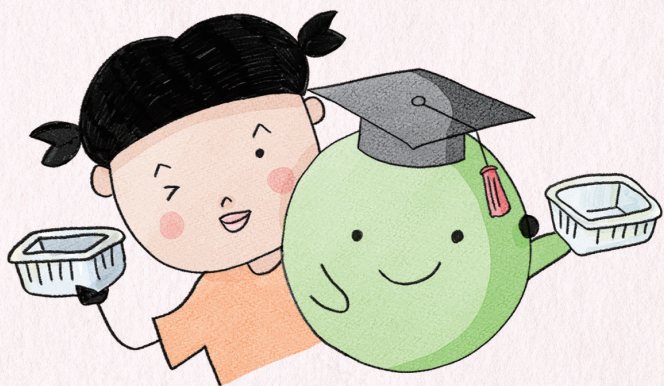
「でも、今はほとんどが燃やしてエネルギーに変えるか、
埋め立てられているんだよ。
だけど、もう一度プラスチックとして再利用できるといいね。」
「どうしたらパックをもう一度プラスチックとして
再利用できるのかな・・・？」

「おとうふ工房いしかわでは

豆腐パックを回収してもう一度資源に戻す取り組みを行っているよ。
集めたパックを砕いて、文房具などに作り変えているんだ。

この活動は地域のいろんな人がかかわることで広がっていくよ。
スーパーマーケットや生協、学校などでパックの回収ができるといいね。
地元の特別支援学校や授産施設では
リサイクル品のデザインに使う絵を描いてもらったり、
袋に詰める作業をお願いしているよ。

一人一人ができることをして、つながっていくといいね」



「じゃあ、私はお豆腐のパックを集めてお店に持っていくね！」



PAY IT FORWARD

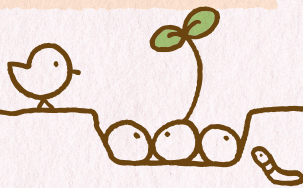
1人はみんなのため みんなは未来のため

プラスチックは食べ物の長期保存や医療における衛生レベルをあげるものとして、今では様々なものに活用され私たちの生活には欠かせないものとなっています。

プラスチックを生活から排除するのは、現代社会で快適に生活していくためには現実的ではありません。限られた資源を大切に次世代へつないでいくことが今の私たちが出来ることだと考えています。

排除するわけではなく
上手く適切なバランスでつきあっていく

その根底にある想いが
次世代へのPAY IT FORWARD (恩送り)です。



発行：株式会社おとうふ工房いしかわ

〒444-1304 愛知県高浜市豊田町1-204-21

<https://otoufu.co.jp>